



第345号

令和4年 7月15日

児童数 658名

編集発行 新潟市立下山小学校

むごい教育

教務主任 加藤 利彦

戦国時代、駿河国（今の静岡県）を治めていた今川義元は、当時の習わしに従い、竹千代（後の徳川家康）を人質にとりました。そのとき、義元は家来に「竹千代に『むごい教育』をせよ。」と命じました。義元の考えを知らない家来は、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなしで武術を教え込む生活をさせたのです。一日が終わった夕方にはトイレで腰を下ろせなくなるほど厳しくしたのです。

これを聞いていた義元は、語気を荒げて「それは『むごい教育』ではない。」と怒り、次のように言いました。「人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやれ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。学問が嫌だと言うならやらせるな。何でも好き勝手にさせたらよい。」最後に義元はこう言ったのです。「そのようにすれば、たいていの人間はだめになるから。」義元は、後に成人した竹千代（徳川家康）が、自分に敵対できないように、今のうちに、骨抜き・腑抜けにしておくことを願ったのです。

「むごい」とは「残酷、無慈悲、悲惨」という意味です。いわゆる児童虐待は、文字通り「むごい教育」です。しかし、辛さや苦しさを乗り越える厳しさを経験させず、甘やかしてばかりいても、結果的に「むごい教育」になってしまう可能性があるということを、義元の逸話は表しています。

さて、子どもたちがよりよく成長するために何をしなければいけないのか、上記の今川義元の逸話から、学ぶべきことがあります。子どもたちがゲーム三昧の生活だったら、ユーチューブ見放題だったら、どうでしょうか。

勉強したくないからと言って教室になかなか入れない子や、壁やストーブを蹴って気持ちが収まらない不機嫌な子が増えているそうです。理由を聞くと、学校で何かいやなことがあったわけではなく、「ゲームができないから、何もしたくない。」「ゲームができないからいらした。」家ではゲームをやりたいていだけできるのだと言うそうです。ゲームし放題、ユーチューブ見放題は、義元の言う「むごい教育」に当たるのではないのでしょうか。

現代は物にあふれ、便利なことがどんどん増え、義元流の「むごい教育」を行うための条件が見事に揃っている環境だと言えます。子どもたちの心の様子をしっかりと捉えながら、時には厳しく、時には丁寧に導いていくことが、私たち大人に求められていると考えます。きまりや挨拶の大切さを教え、感謝する心や我慢する心を養い、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが大切です。その子にあった方法は何かを考えながら、ご家庭と学校が協力して取り組んでいきたいと思えます。

学校のホームページもご覧ください。 <http://www.shitayama-e.city-niigata.ed.jp/>

（携帯専用サイトもご覧いただけます。）

たくさん学べた佐渡体験教室 6年1組

私が佐渡体験教室のことですごいなと思ったのは金山です。私は佐渡金銀山を人の手で掘っていたということにとっても驚きました。佐渡金銀山の中に入ってみると少し肌寒かったです。人形が動いていて当時の金山が再現されていました。それに通り道は本当に人が掘っていたの?と思うくらいしっかりと大きく掘られていて昔の人はすごいと思いました。資料館では金の延べ棒つかみ取りチャレンジもありました。佐渡金銀山のことをたくさん学べてよかったです。

難しかったたらい船 6年1組

私は、5月31日に佐渡へ行きました。私のコースは南佐渡でした。特に思い出に残っているのは、たらい船に乗ったことです。こいでいる方を見ると、とても簡単そうでした。いざ乗ってこいでみるととても難しく、ずっと同じ場所でぐるぐるしていました。そう思うとこいでいる方は、とても上手だなと思いました。ほかにも太鼓体験や千石船見学など回りました。太鼓体験では、たたき方を教えてもらいました。千石船見学では、昔の木の船の造りを見て、とても勉強になりました。

思い出に残った佐渡 6年2組

ぼくは、外海府コースに行きました。外海府コースでは、釣り体験やいかの一夜干し作りをしました。釣り体験では、フグを釣ることができました。釣れると思っていたけれど釣れたのでよかったです。また、外海府に生息している魚が見られる水族館もありました。めったに行けないところに行けてよかったです。船やバスの中から見た景色はすごくきれいで、海は大きかったです。また、野生のトキを見ることができて、すごいなと思いました。みんなが楽しめたので、よい思い出になりました。

佐渡で見つけた宝物 6年2組

ぼくは、砂金採りの仕方を西三川ゴールドパークのスタッフの方やバスガイドさんに教えてもらいました。それは、砂を底からすくい採り、その砂を水面でよくゆすると砂より重い金は下に沈むので、パンという道具の段差を利用して表面の砂だけ流していく方法です。それを繰り返すと最後には金が沈んでいて採ることができます。ぼくは、何度も挑戦して3個採ることができました。金を見つけたときはうれしかったです。バスガイドさんの話で、砂金は砂より5倍も重いと聞いてびっくりしました。

初めて見たトキ 6年3組

ぼくは、佐渡へ修学旅行に行っておどろいたことが二つあります。一つ目は、トキが田んぼを歩いていたことです。図鑑では大切そうにのっていた鳥が、当たり前のように田んぼを歩いていたから、おどろきました。二つ目は、トキの森公園で初めて聞いたトキの鳴き声です。まるでカラスのような鳴き声でした。トキの体の色は、カラスのような声にはそぐわない、雪のような白にあざやかな赤、すけるようなピンク。「天は二物を与えず」とは、まさにこのことではないかと思いました。トキについてたくさん知ることができて、とてもうれしかったです。

佐渡でのろくろ体験 6年3組

私は、ろくろ体験を通して『無名異焼』について知りました。私はそれに興味をもち、佐渡から帰って来てインターネットで調べてみると、「無名異焼の歴史は、安政4年(1857年)に伊藤富太郎さんが佐渡金山周辺で産出する無名異という土で本焼を始めた...」ということが分かり、私は歴史のある焼き物なのだなと思いました。佐渡に行って自然や文化に触れたり、貴重な体験ができたりして、とても良い思い出になりました。また佐渡に行ったときは、ろくろ体験をしたいと思います。

